

# 慈眼

## 第23号

発行所  
唐津市西十人町127  
法蓮寺内

TEL 0955-72-2393  
FAX 0955-74-4948

### 日蓮宗佐賀 教化センター

発行責任者  
藤山英周

## 日蓮宗佐賀県 護法武雄大会

澄みきつた晩秋の青空のもと、平成十六年十一月二十八日、日蓮宗佐賀県宗務所・護法護持会主催により武雄市文化会館に約千五百名の僧侶、檀信徒が集い、「日蓮宗佐賀県護法武雄大会」が開催されました。

午前十時から第一部、団扇太鼓に先導された玄題旗・宗旗が入場し、日蓮宗佐賀県檀信徒協議会会長古川秀次氏の開会宣言が行なわれ、寺庭婦人の発声のもと宗歌斉唱がなされ、護法の祈り音楽大法要の開始となりました。

大導師に日蓮宗佐賀県宗務所小寺大誠所長を仰ぎ、副導師として協議員議長加藤智顕上人、協議員副議長石井智俊上人、社教会会長藤尾成能上人、布教師会会長静山是秀上人が勤め、式衆に声明師会会長藤本宣文上人を始め、県内の各上人が出仕し、厳かに執り行なわれました。また、今回は、式中随処にわたり、矢吹紫帆様のシンセサイザーの演奏が加わり、

華やかな感動あふれる素晴らしい音楽大法要となりました。

この度の法要では、「伝える」（唱え、持ち、伝えよう）のテーマの下、法要に檀信徒の皆様に参加して頂きました。

まず、供養の儀では世代別に献香・献灯・献華が執り行われ、また、自我偈読経中に、子供たち五十五名が奉持した灯火が会場内を照らし、御宝前に献灯して



《護法の祈り音楽大法要》

「妙」の一字を浮かび上がらせました。さらに、子供達を代表して蒲池正浩君、藤本郁子さん兩名によって誓いの言葉を御宝前に奉げました。

法要終了後、県内寺庭婦人会・檀信徒による法華和讃の奉納があり、一糸乱れぬ息のあつた団扇太鼓の音、和讃の声に会場内の皆様は聞き入っておられました。

続いて、修法師会会長鶴孝澄上人導師の下県内修法師により御宝前修法と大衆法楽加持がなされ、立正平和の祈念と檀信徒の信力増進の祈念が行なわれました。

昼食を挟んで午後一時から第二部清興が行なわれ、本年度で結成三十周年を迎える日蓮宗佐賀県青年会雅楽部による雅楽の演奏を披露しました。

まず、青年会雅楽部部长前田智憲上人より雅楽の説明や楽器の紹介があり、各楽器の音色や式中外の初めての雅楽の演奏に会場内の檀信徒の皆様も改めて雅らかな音色に感銘を受けておられました。

続いて、第一部の護法の祈りの法要にも参加して頂いた矢吹紫帆様のシンセサイザーのコンサートが開かれ、癒しの演奏に会場も一体となり大いに盛り上がりました。

最後に宗務所長のもと青年会行脚隊・寺庭婦人会の団扇太鼓と共に会場も割れんばかりの唱題行、お題目の音が響きわたりました。

私達は次の世代に「伝える」との信念で、尚一層のお題目信仰に精進して行かなくてはなりません。

## 日蓮宗佐賀県インターネットホームページ

# http://www.nichiren-saga.jp

このホームページでは、日蓮宗佐賀県の活動内容や、由緒寺院、各種行事についてのお知らせ、また、特集ページでは教義や信仰の心、日常生活の中での宗教的な諸事についてご案内します。

【特集】《六老僧》

日蓮聖人の直弟子である六人のお上人様の生涯をたどります。今回は大國阿闍梨日朗上人です。

大國阿闍梨日朗上人

日朗上人は、寛元三年（一二四五）四月八日、下総（千葉県）にお生まれになり、幼名を「吉祥鷹」と呼ばれました。建長六年（一二五四）より日蓮聖人の教えを受け、文応元年（一二六〇）に出家なされたと伝えられています。

日蓮聖人のお膝元、鎌倉で教えを弘められ、日蓮聖人に孝養を尽されたので、「日蓮の行くところ、常に日朗あり」といわれ、「師孝第一」と称されるようになりました。

文永八年（一二二七）日蓮聖人が龍口法難・佐渡流罪に処せられた時、多くの門弟も弾圧を受けましたが、日朗上人はじめ五人の弟子・檀徒が、鎌倉の長谷の「土の籠」に幽閉されました。この入牢から、日朗上人が当時の門弟中、いかに際立った存在であったかが推察され、またこれは、日朗上人が法華経を身にも心にも読み、実践されたお姿と言えます。

この時、日蓮聖人は相模の依智より『五人土籠御書』というお手紙を送られ、五人の身を案じられました。この入牢中、監督官であった宿屋光則は、彼らの日々の行儀を見聞するうち、とくに日朗上人の行儀に感銘し、日蓮聖人の佐渡赦免の後になって日朗上人に帰依しました。後年更に日朗上人の弟子となり、自邸を投じてお寺とし、父行時と自身の名をとって行時山光則寺と称したと伝えられています。

鎌倉比企谷に日蓮聖人が開かれた法華堂があり、日朗上人がその後を継いで長興山妙本寺と名付けられました。日朗上人はここを本拠として、日蓮聖人入滅後における鎌倉の僧侶や信者を指導し統率されました。日朗上人は日蓮聖人生前から、武蔵国池上郷の地頭池上宗仲公と交渉がありました。その縁で日蓮聖人滅後、宗仲公は日朗上人を師と仰ぐ檀越になったと考えられています。この師檀両者が協力して日蓮聖人示寂の地、池上に法華堂を創立したのが、池上本門寺のはじまりです。同寺の日蓮聖人御影胎内の聖人遺骨を

納める唐金筒の銘に「大別当 大國阿闍梨 日朗」、「大施主 散位大仲臣宗仲」等と記されています。別当とは堂または寺院の最高主管者の呼称です。下総平賀にも日朗上人に関係のある法華堂がありました。同地の日礼上人は地藏堂を改めて法華堂とし、日朗上人を請じました。日朗上人は弟子の日伝上人に、この法華堂の管理を任せました。のちの本土寺がこれです。

比企谷の長興山妙本寺・池上の長栄山本門寺・平賀の長谷山本土寺の三寺はのちに三長三本と称せられ、日朗門流の三大拠点であったのです。こうして、日朗上人は三寺を形成され、教線を伸張されたばかりでなく、弟子の育成にも努められました。弟子の最たる者を、古来、朗門の九鳳・九老僧と称しています。日像上人・日輪上人・日善上人・日典（伝）上人・日範上人・日印上人・日澄上人・日行上人・朗慶上人の九名がそれです。日像上人は、日朗上人に就きましたが、晩年の日蓮聖人にも就学し、のち京都に教えを弘めていきました。

日朗上人は元応二年（一二二〇）、七十六歳で御遷化なされました。忌日は一月二十一日と伝えられています。

佐賀の老舗 信用本位

技術本位

辻の堂の仏だんや

**(株)本庄仏具総本店**

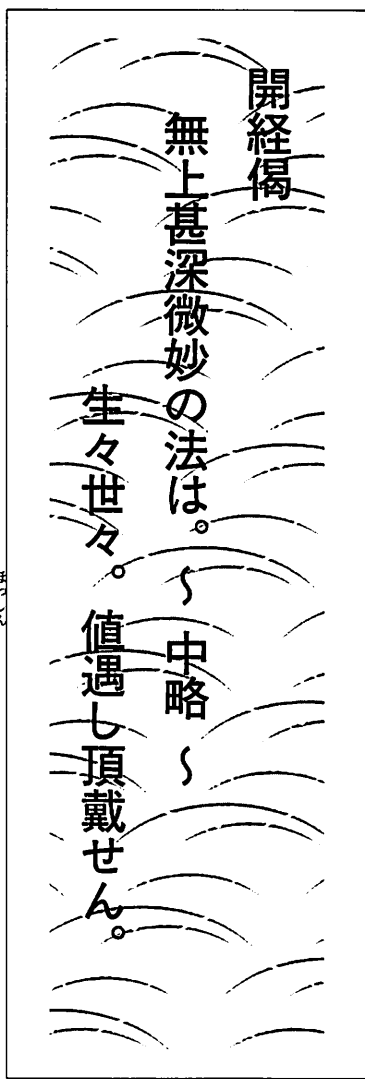
佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952-23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 30-4040 (0952) FAX 30-4043

南佐賀草苑本庄 佐賀市本庄町大字本庄951 25-1255 (0952) FAX 25-1088



読経（お経を読む）の前に唱える偈文を開経偈といいます。はじめの四行はほとんどの宗派で用いられていますが、日蓮宗以外では四行目を「如来の真実義を解せん」と唱えます。日蓮宗では、究極の経典「法華経」によって誰もがさとるを得られること、この教えにめぐりあえたことに感謝し、いくたび生まれ変わっても、この教えを受持することを誓うというお経です。

この開経偈の文は、『このうえもなくすぐれた仏様の教えは、百千万劫という永遠の時を経てめぐりあうことは難しい。しかし、私は今幸いにしてその教えを聞き、素直に信じる事ができました。どうかこれからも修行して、仏さまの無上の教えを体得したいと心から願っています。』  
 仏法の極まりである大乘の教えは、我々凡夫には考えもおよばないものです。しかし、見ることに、聞くことに、感じることに、知ること、そのすべてを通じて、菩薩（さとり）の智慧に近づけることができます。その教えの内容を明らかにしてくれるのが、報身（お釈迦様）であり、つまりは

法身（真理そのもの）であり、そして色や形として肉眼でみることができ「法華経」の一字一文字、これがすなわち応身（仏の化身）なのです。はかり知れない功德がすべて、「法華経」に集約されているのです。だから、なんの障害もなく、暗闇に香るように秘かに恩恵を与えてくれます。智慧のある者にもない者にも罪を消滅させ、善を生じます。信じる者も、誹謗する者も、ともに悟りの道を成就するでしょう。過去・現在・未来にわたる仏様方によるすぐれた経典なのです。生まれ変わり死に変わりして多くの世を経て、めぐりあい、受持いたします。』という、ほとんどの皆様がお経が始まる前にお読みになる経文であります。私たちが、報身（祈り）、法身（悟り）、応身（行い）というこの日蓮宗の三大誓願を受持し、法華経の教えの通り歩み、自分自身が仏の化身である事に気付かねばならないという事があります。今ままで以上に法華経に接し、仏の子として共に精進して参りましょう。

**Q** 先日護法大会で「和讃」が唱えられました。が、「和讃」について教えてください。

**A** 簡単に説明致しますが、和讃（わさん）又は法華和讃（ほっけわさん）と呼称します。

和讃とは、和文（経文は漢文）による仏教賛歌の一種で、その内容は仏様・お釈迦様の徳や教え、また、お祖師様・高僧等の行跡をほめたたたえたものが多く、団扇太鼓のリズムに合わせ口語体で唱えることで、より深く簡単に誰にでも理解出来るという魅力を持ったものです。

近年県内に於いても盛んになってきた和讃ですが、現在、佐賀県の宗門に於いて法華和讃の普及活動並びに指導に尽力されておられる、日蓮宗佐賀県声明師会会長の藤本宣文上人のコメントを紹介致します。

「県内に於いて和讃に取り組み始めた次期は昭和六十年。寺院婦人会の活動として研修を重ね、今年で十九年目を迎えます。現在日蓮宗では、青森県に伝わる和讃、静岡県に伝わる和讃の二つの和讃が主流ですが、県内では青森県に伝わる和讃を伝えております。宗祖日蓮大聖人のご生涯を十番までの歌にした『日蓮聖人奉賛歌題目』は、よくご存知の和讃です。

最近では長崎県で作詞作曲された『蓮華の如く』縁生・光明の二曲を県内の檀信徒の皆様にお伝えし、熱心に研鑽を積まれた結果を、去る十一月二十八日の護法武雄大会に於いて発表致しました。

和讃とは、沢山の人が心を一つにして唱え、和讃を通じて仏祖に連なるという、異体同心の信心そのものです。

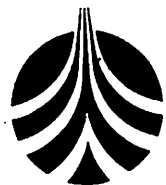
したがって和讃の上達の秘訣は、一に信心、二に精進、三に素直さ、四に和合心ということになります。県内に於いて和讃が益々盛んになりますことを願って止みません。

平成17年度・創業83年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

# 光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521  
 佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



手を合わせるころを大切に・・・

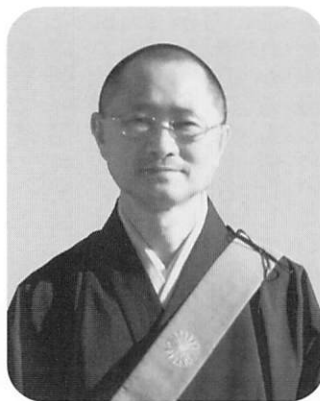
**山本仏具**  
 佐賀市呉服元町10-12 23-4308  
 〒840-0824 ☎ (0952)

- ・寺院用具一式
- ・前卓
- ・金物
- ・宮
- ・登高座
- ・修復
- ・須弥
- ・経
- ・仏壇
- ・人天
- ・美術彫刻品
- ・仏
- ・櫃
- ・宗教絵画
- ・神祇用具
- ・環
- ・塗
- ・佛物
- ・其
- ・他
- ・仏彫刻
- ・造

# 寺院紹介 (二十)

## 《廣岡山 円満寺》

ひろおかざん えんまんじ  
武雄市武雄町大字武雄



池永英寛住職

武雄温泉駅より西へ車で約六分。南東には御船山を望み、武雄市内で唯一の日蓮宗寺院です。

### 【草創由来】

天正五年（二五七七）草創。開山は一乗律師日粒上人。二世不詳、三世日真、四世日禪、五世日堯、以来歴代不明、二世日恭、二三世日昇、二四世より二六世まで不明、二七世日賢、二八世日道、二九世日寿。  
開基は田中安藝守朝門公といい、武雄領主十七代後藤職明公の側室で、母品子の追福のため建立されました。  
文政元年（一八一八）、暴風で本堂等全て倒壊し、火災を起こし庫裡や仏像、什器、その他書類等の一切を焼失しました。その後、熱心な日蓮宗の信者で武内町



《円満寺本堂全景》

真手野の大庄屋、宮原忠勝が再建に努力し、翌、文政二年、仮本堂を建て、数年後に本堂の新築を完工し、復興が続けられた。

現在の本堂は、大正三年（一九一四）五月十三日新築起工。満一ヶ年を要して、翌大正四年五月十三日に完成したもので、同年十月二十七日・八日の両日には大正天皇御即位大典記念を兼ね、本堂新築開堂式・本尊遷座式が挙行されました。  
堂内には他に、日朝上人木像・最上位経王大菩薩像・西之原尊霊御像・鬼子母神像が奉安してあり、本堂左の境内には清正公堂があります。昭和五五年には宗祖日蓮大聖人第七百遠忌記念事業として庫裡の改築を成し、今の姿となっています。

### 【清正公堂】

日蓮宗の深信者として知られた加藤清正公の木像を文政十年（一八二七）大村領彼杵より迎え、初めは本堂内に奉安し



《本堂御宝前》

てありましたが、大正三年、本堂新築に際し、お堂の建設が計画され大正十一年に建立され安置されています。

### 【西之原尊霊御像の由来】

尊霊は、多久男爵家梅溪一睡大居士の大叔母にして林姫と称せし人となり。故あって順導院日護上人に依り勧請せられ、衆の尊信するところなり、参拝者は之を安産守護として礼拝す。  
二八世順正院日道上人が当寺に入るや、該尊像を毎年お会式の際、多久より神輿にて出張開帳ありしが、大正十二年に、有志の勧誘により当山に安置す。



《西之原尊霊御像》



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工  
拝む心で尊い品を

## 梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9  
0027 (地下鉄中洲川端駅下車)  
7番出入口・博多座裏  
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4  
0373

0120-39-0456

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 黄城  
葬祭会館 こう光 雲 閣

小城郡三日月町大字久米2134-1

代表 (0952)-73-3938

TEL (0952)-73-2020